

自分で守ろう、自分のカラダ！

～ライフサイクルの中での女性の健康づくり～

かとうぎ桜子は、昨年末に受けた定期的な検診の結果、子宮頸がんが見つかり、この春に治療しました。若い世代でもがんになる可能性はあると聞いて受けていた検診でしたが、実際にがんと診断されると「まさか、自分ががんになるとは…」とってしまったのが実感でした。特に年代が若いほど、「自分は健康である」と過信しがちなのではないのでしょうか。

検診はどのくらいの頻度で受ければいいのか？

今、子宮頸がんの他、子宮内膜症や子宮筋腫などの病気も若い世代に増えているといえます。

婦人科はどう選べばいい？

一方で、婦人科検診はなかなか身近なものではなく、日本における検診受診率は2割程度で、欧米と比べてもかなり低い状態です。学校教育で身体のことを学ぶ機会も十分とは言い難いのではないのでしょうか。

そこで、今回、婦人科のお医者さんをお呼びして、健康について、婦人科について、性について、私たちが知っておくべき基本的な知識を教えていただきます。

ワクチンは接種した方がいいの？

排卵って、左右交互に起こるわけじゃないって知ってた？

日時：2012年9月29日(土)午後2時～

場所：石神井公園区民交流センター2階 会議室2・3

(石神井公園駅北口を出て目の前にある高層ビル「ピアレス」の2階)

講師：吉野 一枝 氏 (よしの女性診療所 院長)

産婦人科医・臨床心理士

* 男性の参加も歓迎します。

【講師プロフィール】産婦人科医・臨床心理士 吉野 一枝(現姓 田中)

1954年東京生まれ。

高校卒業後、今で言う「フリーター」や、コマーシャル制作の会社勤務を経て、29歳の時、医学部受験を志す。3年間の予備校通いの末、32歳で帝京大学医学部入学。

1993年 帝京大学医学部卒業。第87回医師国家試験合格。

東京大学医学部付属病院産婦人科に研修医として勤務。

1995年 東京大学医学部産科婦人科学教室に入局。

母子愛育会愛育病院、長野赤十字病院、藤枝市立総合病院などの産婦人科に派遣勤務この間、東京警察病院にて麻酔科研修。

2001年 臨床心理士資格取得。

2003年 よしの女性診療所を開院。



趣味は音楽、料理、書道、乗馬など。

日本産科婦人科学会認定医、日本臨床心理士資格認定協会会員

日本ソフロロジー法研究会会員

プロセス・コミュニケーション・モデル (Process Communication ModelR) 認定トレーナー

NPO 法人女性医療ネットワーク理事

「性と健康を考える女性専門家の会」運営委員

<http://www.drkazue.jp/index.html> (診療所ホームページ)

【主催者プロフィール】練馬区議会議員 かとうぎ桜子



1980(昭和55)年生まれ。桐朋女子中学・高校、慶應義塾大学文学部を卒業。大学在学中にホームヘルパー2級の資格を取得、さらに福祉の勉強をするために上智社会福祉専門学校(夜間)に学ぶ。

NPOにて介護の仕事をする中で、地域福祉・地域社会にさらに深く関わることをめざし、2007年、区議会議員選挙に初挑戦、初当選。

2010年3月立教大学大学院・21世紀社会デザイン研究科を修了。

2011年4月、練馬区議会議員選挙にて2期目に当選。

2011年末に受けた定期的な子宮頸がん検診でがんが発見され、2012年3月に手術。この体験を機に、がんの問題、健康問題への取り組みを始めている。

議会では議会運営委員会、区民生活委員会、災害対策等特別委員会に所属。

-----申し込み(FAX03-3978-4158 または メール sakurako_happy_society@yahoo.co.jp にお送り下さい。)-----

名前

性別・年代

住所

電話番号